
天使たちのめるへん

うさぎさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使たちのめるへん

【Nコード】

N7195J

【作者名】

うさぎさん

【あらすじ】

独りのこされた妻のおばあさが息子家族と住むまでおじいさん天使さんがよりそお話です。

おじいさんてんじさんの愛（前書き）

こんな心温まるお話があったらもう少し今の世の中も幸せするかも！

おじいさんてんしさんの愛

今日も天使たちが地上に降りて行きます。

今度はおじいさん天使さんとおばあさん天使さんとお父さん天使さんです。

雪が降っています。

さあ出発です！

おじいさん天使さんは一片の雪に乗りました。

そしてここは北国の小さな町です。

朝から深々と雪が降っています。

山の畑の小屋で朝からおばあさんが野菜達のお世話をしています。白菜さんも大根さんも里芋さんもねぎさんもじゃがいもさんだつて有ります。

でも一緒に働いてたおじいさんがもういないのです。

去年の末におじいさんは他界してしまいました。本当に仲の良い夫婦でした。

子供は五人いるのですが五人とも遠く街に住んでいます。

長期の休みには子供達は必ず帰って来るのですが、なんせあまりにも遠い所に住んでいるのですぐには帰って来ることはできません。仕事の都合やなんかで皆帰るのは無理なのでした。

皆おばあさんのことを心配しながら帰ってくることはできないのです。

おばあさんはおじいさんがいないのにもやっとなれ、独り暮らしではありますが元気に働いていました。

天国には人間の世界を見ることのできる場所があるのです。

おじいさん天使さんは独り残したおばあさんが心配でしかたがありません。

おばあさんが見える場所から離れられないでいました。

おじいさん天使さんはそこをのぞいてはいつも独り残したおばあさんことを心配していました。

神様はそんなおじいさんを思いやり、おばあさんのところに行くことを命じたのでした。

おばあさんは今日も畑の小屋でお仕事をしています。

春の農作業の準備です。

おじいさんが使っていた道具を見てはいろいろ思い出していました。

そこへおじいさん天使はそっと近づきます。

（ごくろうだね）おばあさんを愛しそくにみつめます。

でもおばあさんにはおじいさん天使さんが見えないのです。

（これはおじいさんが収穫したじゃがいもだね）懐かしく思い出しています。

（夕飯はこのじゃがいもを使って肉じゃがでも作ろうかね。）じやが芋選びをします。

ここはおばあさんの家の台所です。

手慣れた手付きでトントンじゃが芋を切っています。豚肉を炒めじやが芋と玉ねぎを入れます。

はつときづくとおじいさんの分まで作っていました。

（あらら！またおじいさんの分まで作ってしまったねえ）。おばあさんは思わず苦笑してしまいます。

（おじいさんにお供えでもしようかね）

そうなのです。肉じゃがはおじいさんの好物なのです。

そばにいる見えないおじいさんは思わず涙ぐみます。おばあさんが愛しくて仕方がないのです。

おじいさんの写真の前に肉じゃがを供えます。（ばあさんうまいよ。）おじいさんの声が聞こえてきそうです。

（おじいさんどうしてるんですか？）写真に話し掛けます。

（おじいさんが収穫したじゃが芋ですよおいしいですよ。）と手を合わせます。

（元気だよ。でもばあさんが心配で来てしまったよ。）と話し掛けます。

でもおばあさんには聞こえません。

なんだか変ですが、おじいさんが見えないまま二人は暮らしていました。

ある日のことです。おじいさんとよく採ったあけびのみを山にのみに行きました。

おじいさん天使さんも一緒にいます。

大変です！

おばあさんはあけびに氣をとられて川に落ちて氣を失ってしまいました。

おじいさん天使さんもあけびに氣をとられているうちに突然隣にいたはずのおばあさんがいなくなったものですからびっくり！

何と水の少ない川底でおばあさんは氣を失って倒れているじゃありませんか！

おじいさんも羽根をパタパタおばあさんのところに降りて行きます。

した。

（ばあさん！ばあさん！）

肩を抱いて揺すります。

おばあさんは目を開けません。

おじいさん天使さんは思います。

（早く救急車をよばなくては！）

でも山の中です。電話はありません。

下の方を見ると近所奥さんたちが歩いて来るではありませんか。
気が付いてくれればよいのですが、おばあさんは川の底です。

だから近所の奥さんたちにおばおさんの姿は川の底なので見えない
のです。

（とにかく奥さんたちにおばあさんのことを知らせなきゃ！）と
おじいさん天使さんは思います。

奥さんたちもおばあさんのことを話題にしています。

（あら今日はおばあさんお休みかしらいつもよく働いておいでな
のに珍しい事だわねえ。）不思議に思いながら通り過ぎようとしま
す。

おじいさんはあけびのところねばたばたととんでいき枝を揺すり
ます。

一人の奥さんが枝の揺れる気配で、ふと見上げるとあけびがたく
さんなっています。

（ねえあけびがあんなになっているわ。つんでいかない。）もう
一人の奥さんが指差します。

（そんなじきなんだ。）

こちらに來ます。

あけびのところまでくると（川危ないわね。）川の底に目をやりました。

なんとおばあさんが倒れているではありませんか。

（おばあさん！おばあさん！）声をかけますが反応はありません。一人の奥さんが携帯電話をもっていました。すぐ救急車をよびます。

ばあさんが病院のベットで気が付いたのは3日後でした。子供たちが皆おばあさんのそばに集まっています。

おばあさんは目を開けました。

目を開けると子供たちが揃っているのでびっくりです。

（お母さん！）みんなの目には涙ががあふれます。

（みんなどうしたの？）おばあさんのほうがびっくりです。

おばあさんはベットに自分が寝ているのが不思議です。

（そうだあけびをつんでたんだ。）思い出しました。

（そうですね。お母さんは川に落ちて近所の奥さんに助けってもらったんですよ。運がよかったですよ。）

やっとおばあさんは理解ができました。

（そうだおじいさんとあけびを摘んでいた夢をみましたよ。なんだかおじいさんがいたような。）

そして少ししておばあさんは退院しました。

子供たちはみんなで話し合い子供の一人がおばあさんと暮らすことにしました。

新学期の始まる春休み役場に勤め始めた息子一家が田舎に帰って来ました。

おばあさんはもう独りではありません。
その後は息子夫婦と孫たちに囲まれ楽しい毎日をおくったそうです。

安心したおじいさん天使さんは天国にかえっていきました。

庭にはおばあさん一家を守るようにあけびの花が優しく咲き誇っていました。

天国に帰ったおじいさん天使さんは毎日おばあさんの見える場所でニコニコしています。

（おばあさんや天国で楽しくいつかくらそうな）と。

おじいさんてんじさんの愛（後書き）

この話は割りと早く創り上がっていましたが、安心しすぎて大遅刻
トホホ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7195j/>

天使たちのめるへん

2010年10月19日22時03分発行